

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370800229		
法人名	医療法人社団 敬和会		
事業所名	グループホームとおの		
所在地	岩手県遠野市松崎町白岩13-30-8		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	平成24年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370800229&SCD=720&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、職員、ご家族様皆で、何事に関しても、一緒に共に笑顔で、楽しく過ごせるということを心がけている。又、保育園、自治会館も近く、正面には畑も見え、とても良い環境のもと、地域の方との交流を大事にし、仲よくしていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠野の市街地にあり、交通の便もよく保健・福祉・医療の関係機関に囲まれ、利用者にとって恵まれた環境にある。居間兼食堂とそれを回廊状に取り巻く廊下、人に優しい手すりなど、ゆったりとした造りになっており、明るい雰囲気を感じられる設計となっている。また、天井にはスプリンクラーが設置され、廊下に排煙装置、事務室には緊急通報装置、火災専用電話が配置されており、災害に備えた設備も充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常、行事等、理念にある「共に笑顔」「やすらげる家」を目指し取り組んでいる。又、少しずつではあるが、地域の中にも溶け込めるよう関わりをしている。	廊下に手作りの布地をつるし、その布地に和紙を貼って墨字で理念を掲示している。理念は職員皆で検討して策定されたものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会費を支払い、地域の一員として、地域行事に参加したり、ホーム主催の行事に地域の方にも参加していただけるよう取り組んでいる。	地元自治会に加入している。65歳以上の方で、「案山子の会」が組織されていて利用者も会費を支払い、昼食会、遠足等の行事に参加している。近くに保育園があり運動会、ハロウィン等に招待されている。また、ホームでの餅つき行事には園児を招待する等、地域との交流を活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、認知症のことに話す機会は出ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、利用者様の状況や、職員の状況を伝え、会議のメンバーの方にも共有していただいている。又、ホーム主催の行事もどのように進めていったらよいか等も会議の中で話しあっている。	委員会は、地元自治会長・区長・民生委員など地域の代表者で構成されている。家族会がまだできていないこともあり、運営推進会議のメンバーに家族から委員としての参加がない。	家族会の発足等に関わらず、運営推進会議への利用者家族への参加を呼び掛けていく工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加していただき、情報交換している。又、担当課がある施設がホームかた近いかも、確認したいことがあり時は、直接行き、お話を聞くこともある。	地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーとなっている。支援センターは至近距離にあり、また遠野市の主管課である長寿課も同じ建物の中にあることもあり、連携は十分図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関を施錠しておらず、センサー感知器を設置している。身体拘束をしないといけないこととは職員は理解はできており、身体拘束はしていない。しかしホーム独自の勉強会をしていないことが課題で意識向上にもつながらない。	過去には家族の要望により(家族の)了解のもと、カテゴリーを抜かないような服装で対応したケースがあった。現在は行っていない。玄関の施錠は、防犯上20時から翌朝7時まで行っている。日中は玄関にセンサーを設置し、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、同法人の老健での研修会には参加しているが、独自での勉強会を開催できていない。身体拘束と同様で、意識向上の為にこの機会に早めに行いたい		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を使っている利用者様はいるが、実際まだ、詳しく学ぶ機会をもうけていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、変更時には、説明をし何か聞きたいことはないか確認し理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方のご家族の方とはメールでのやりとりをしご意見を聞いたりしている。他、面会時にお話したりはしている。	家族は、関東方面2名、盛岡市内1名、遠野市内5名、住田町1名となっている。遠距離の家族とはメールでの情報交換をしている。面会時を利用して、意見・要望を出していただくようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議での話し合いの他、必要時に集まりを持ち話しあっている。日常においても意見を聞くようにしている	毎月開催している職員会議や、日々の仕事を通じて、意見・要望を把握している。例として、冬場の洗濯物の干場があれば、利用者が不便な思いをしないだろうとの提案があり、ホームと庭との間にサンルームを設置したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	変則勤務にて、勤務日数が長くないように勤務表を作成、また、希望の休みを取りやすいようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できる機会が少ないが、同法人の老健での研修会には参加しており、ホームで生かせることはすぐ取り入れていくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は他事業所との交流する機会がなかったが、来年度(24年度)は市内グループホーム、又、同法人のグループホームでの研修も検討している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が強い方に対しゆっくりと関わり又、同じ職員で対応し顔なじみになり、顔なじみになった職員から次の職員につなげていくようにしている。他利用者様ともなじみの関係を築けるようにきっかけ作りもゆっくりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所、通所共に、ご家族様からのお話をさせていただくことは大切にし、出かけることは行いながら、関わりを深めていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は特に観察をし、細かいことも記録し情報共有、情報交換し必要なときは1日の流れの変更をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯干し、たたみ方、食事の準備、後片付け等々日常的に積極的に出かける方には参加していただいている。反面、積極的にお手伝いしたい方がおり、適度にゆっくり手伝っていきたい方とのトラブルにならないように注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望の中でもご家族様と関わるほうがよい部分では、ご家族様に伝え、協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪、美容師さん共に、入所前からの馴染みの方が来てくれている。又、グループホーム入所前にいた老健の入所の方と会うとお話したり、いつも参加している自治会の集まりの方とは顔なじみになりお話を楽しんでいる。、	理容師が外向いてくれてホームの廊下で散髪したり、美容師も居室で、パーマをかけてくれる。馴染みの店には家族と出かける方や、ひとりで出かける方もいる。できるだけ馴染みの関係が継続するよう図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの日々の生活状況や利用者様同士の関係性を把握するように努めるようにし、トラブルになる前にその時に応じた対応をするようにしている。又、新規の通所の方の不安感を取り除けるよう地域性が近く話があう方から関わっていき、その方を介して不安感をなくすようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	3年前くらいに退所した入所のご家族様で、何かあれば相談しにきてくれたり、毎年柿も差し入れて顔を出しにきてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅に行ってみたいという方とってみたり、普段会話から希望や思いを聞いたりするように努めている。又、同じ絵や字に固執している方がおり、書いて欲しいとお話あれば、書いている。	思いや意向については日常生活の中で把握しているが、「声なき声」をどのように把握するか検討している。遠距離の家族が面会に来た時に、自宅に戻り、庭の草取りをしたり買い物に出かけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人それぞれの生活パターンや職歴を確認し日々の関わりに生かすようにしている。又、行動パターンの変化がみられたときにも対応できるように観察、話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの一日の過ごし方を理解できており、その方にあつた対応や出きることをお願いをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間ではカンファレンスにて話し合いをしている。又、必要時には緊急で集まり、対応の話合いをしている。ご家族様にも報告し、ご意見をいただいている。	職員会議のカンファレンスを行い、必要があれば介護計画の見直しをしている。アセスメントの際は、出来るだけ詳しく聞き取って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活のパターンのみの記録となっていることが多く、記録の仕方については見直しが必要だと思っている。その中でも特に職員間での情報の共有が必要な方は記録用紙自体を変え記録を細かくするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの希望によっては休憩時間を変更したり、時間外で対応したりと個々にあわせて柔軟に関わるようにしている。また、通所利用においても、時間の延長や利用日の変更等も縛られずにできる範囲で対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出かけて本をかりたり、地域の集まりに参加。ボランティアの方にも協力していただいている。又、ホーム周辺の畑も借りており、草取り等とてもよくしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医があり、その方にあった病院へ行くようにしている。特に開業医のドクターや看護師とは話やすく、相談できるようになっている。	利用者全員がグループホーム利用前からのかかりつけ医の受診をしている。受診する際は、職員が付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師がおらず、医療連携体制もできていない為、日常的に相談できる看護師はいない。同法人の老健の看護部長には感染症対策について相談したり、脱水の勉強会に参加したりはしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した方がいた際、定期的に面会に行ったり、ご家族からも状態を聞いたりし、1日でも早くホームに戻れるよう(退院できるよう)に関わりを続けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携もできておらず看取りは行わない予定でいる。入所、通所の方共に重度化はしてきており、医療面、認知症の部分において、勉強が必要だと考える。	家族の中には、終末期までお願いしたいと望んでいる方もいらっしゃるが、看護職の配置がなく、また医療連携も行われていない現状で、終末期の支援は難しい状況である。	重度化・終末期のサービス内容について契約時等の初期段階に説明し、利用者・家族の理解を得ていくような取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は救急救命の講習会を受けている。その他は定期的に行っておらず、今後重度化してきている利用者様に対し急変に備えていけるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練をしている。1回目は火災訓練を実施。2回目は通報訓練と災害時の時に使用する物品の確認と使用方法を確認したいと考えている。	日中・夜間帯と年2回避難訓練を実施している。消防署員の立会訓練を実施、訓練後は運営推進会議に参加していただいた。天井にスプリンクラー、廊下に排煙装置、事務室に通報装置・火災専用電話等災害に備えた設備がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人あった声かけをしようとしている。例えば、話しかけ過ぎるとうるさいと思ってしまい怒ってしまう方に対して、うるさいと感じない程度の声の大きさ、話す速さにきを付けている。又、プライドを傷つけないようにしている。	同性による入浴介助希望者には希望に添った介助を行い、トイレ誘導の際も、近くの方に聞こえないような声掛けをしている。居間兼食堂にある小上がりで昼寝をする際、レースカーテンをつけて目隠しをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段お粥を食べている方でも、おいなりさんやカレー等、ご飯の方がよいような時にはご本人に聞いてご飯かお粥にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	機嫌によってなかなかお風呂に入らない、トイレ誘導もできないという方は、その方の気分や行動状況によって、お風呂に誘ったり、トイレ誘導したりしている。食事も食べたくなければ、時間をずらして召し上がっていただいている。個々のペースを大切にしようとしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマをかけたい方はホームにきていただきパーマをかけたり、又は、外泊時にかけてきたりしている。又、自分で服をリメイクして着ている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を書いて見えるようにしたことで、利用者様から「いいな」という声があった。出切る能力に合わせて野菜切りや食材のした準備、盛り付け、準備、片付けを一緒に行っている。	利用者の希望を取り入れながら、同一法人の栄養士からアドバイスを受けて献立を作成している。野菜切り、モヤシの芽とりなど手伝いが可能な方には、調理に参加していただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量はその方の疾病や摂取量、希望にあわせて多い人、少ない人と調整している。水分摂取の回数や量も排尿量を確認しながらしている。お茶にむせがあったり、お茶の飲みが悪い方にはお茶ゼリーを召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でしている方でも1日1回は職員が介助に入るようにしている。又、自分の歯が残っている方がおり介助に抵抗が多く、機嫌を見ながらおこなっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で行く方にかんしては様子観察程度だが、誘導が必要な方は何かの行動のついでに自然と声をかけ案内したり、日中はトイレで出切るだけ排泄していただけるように、排泄確認表を見ながら誘導している。	排泄パターンを把握するための確認票を作成し、排泄自立に向け、支援をしている。通所の利用も考慮し、4ヶ所のトイレがあり、車椅子利用の方も、使用可能なスペースが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様には毎日乳製品を摂っていただいている。その他、下剤にすぐ頼らないようにし、その方にあった便秘解消法を探るようにしている。例えば、朝、牛乳を飲むことで、排便が促される方には、毎日、牛乳を飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番先に毎日入りたい方には、先に声をかけるようにしてる。また、機嫌をみて声をかける方、声かけを工夫することで入る方、それぞれにあった方法で気持ちよく入っていただいている。	日曜日を除き、入浴が可能である。午前・午後のグループ分けをし対応している。夜間入浴を希望する方はいない。風呂の洗い場は広く、介助者2人が必要な場合でも入浴の対応が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の後に休む人、起きている人、作業して入る人、個々の生活パターンが出来ており、休む時間も把握し活動につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の注意と副作用を理解し特に便秘にはきを付けている。又、臨時薬あったときには体調の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の季節の行事に参加したり、図書館に出かけたりしている。又、興味のあることは夢中になってされる方がおり、縫い物、編み物、貼り絵等、お部屋でされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	市内の地域行事へ出かけたり、季節感をかんじていただく為にドライブに出かけたりしている。又、今日は天気がいいから出かけたなとお話があったときなど、散歩にでかけるようにするなど、中に閉じこもらないようにしている。	自治会の「案山子の会」行事に参加したり、同一法人の老健施設まで散歩したり、ホームの野菜畑までの散歩など、自由に外の空気を楽しむことができる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心する方には、手元にお小遣いを持っていただいている。買物や外出時は自分で買物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話を使用することは今年は無かった。利用者様からご家族様へ毎年年賀状を書いてだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乾燥する冬の間は加湿器を設置している。昼食後、昼寝をする方が多いので、共用スペースの電気は消し、メリハリをつけている。他、季節の花を飾ったり、外の景色や花を見ながらおはなしをしたりし季節を感じていただくようにしている。	居間兼食堂はゆったりとしていて採光も良く、窓からは周囲の畑が見えるので季節感が十分に味わうことができる。回廊状の廊下の壁には行事のスナップ写真や壁新聞が飾ってある。災害に対する十分な備えが来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋前のベンチで座って休み、食堂の様子を見て楽しんでいる方、ベンチでお話している方とそれぞれ自由に過ごされている様子が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から椅子、テーブル、タンスを持ってこられている方、自分なりに部屋を飾っている方個々に特徴のある部屋となっている。	居室は、床暖房とファンヒーターが設置されている。ペット・床頭台・洗面台・タンスは、備え付けとなっている。テレビは自由に個室で見ることが可能であるが、どなたも設置していない。個室と廊下の方にベンチがあり、自分の自由な時間を過ごすのには良い空間であると感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	白の手すりが分かりにくい方には赤のテープを貼ることで認識しやすくしている。又、違和感のないように布を使用し隠したりしている。		